

芦谷神社



祭神 大山津見神（猿田彦神の言伝えもある資5）

由緒 室町時代下期に嶽岳に居城した武田弾正の家臣により創建された格式の高い神社と言われている

例祭 旧暦八月十五日

遷座 工業団地建設に伴い平成六年に西へ数十m離れた当地へ遷座をおこなう

歴史 芦谷地域は弥生時代後期の包含地があり谷水田経営の小集団村落が想定されている。資2

平安時代は厳島神社神主の所領であった、平清盛が厳島神社再建時にはこの近隣地からも用材を提供した。資4

承久の乱(1221年)にて武田家に戦功あり安芸守護職に任ぜられ銀山城を築いて安芸武田として一帯を支配した。又、伴、阿戸、久地の界にある嶽岳(521m)に城を築き警護に当たらせた。資1 資2 資3

天分十二年(1542)に毛利氏が安芸武田を破るまで当地を支配する。芦谷神社の前は吉田街道が通っていた。この道は戦国末期に旧山陽道（大原・大塚・石内）を避けて、吉田の毛利氏が長州大内氏へと通ずる裏街道として利用されていたものが残ったと思われる。資3

現在、インターチェンジから西風新都に至る道路が吉田街道沿いに建設されているのは興味深い事です。

昭和十年頃に氏子が清掃奉仕をしている時に偶然境内中央辺りで、口の大きさが15センチぐらいの壺が掘り出された、中を開けると錆びて塊状になった宋銭と小判が出てきて皆驚く。資5

平成の遷座時に重機で境内を掘り起こしたが何も出土しなかった。氏子として花岡家、新本家、中垣内家、、生田家、山崎家、

大迫家らがお祭りに参加していた。資 5

参考資料 資 1 芸藩通史（文政八年 1825 年） 資 2 沼田町史（昭和五十五年刊）

資 3 沼田風土記（昭和五十八年刊） 資 4 藤原繁吾さん記録集

資 5 氏子 中垣内善幸氏・大迫信雄氏より伝承